

報告者：染谷常雄・山本隆司

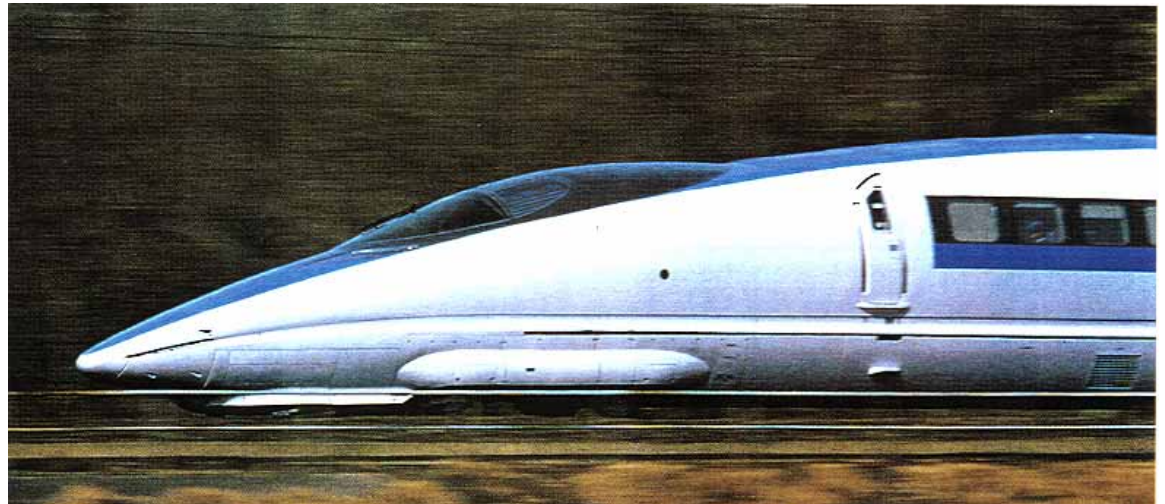
「滑り軸受分野」の報告

JEXSAタイ国際標準化体制構築 支援事業報告会

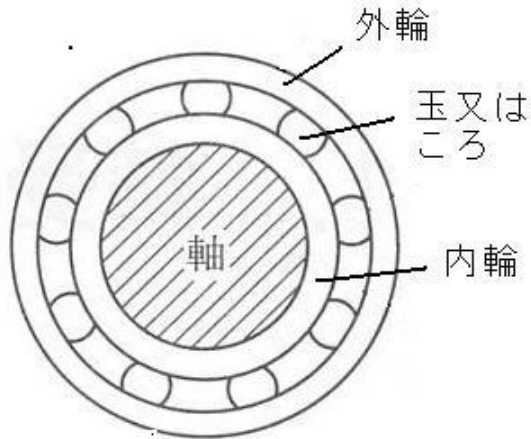
2006年3月30日



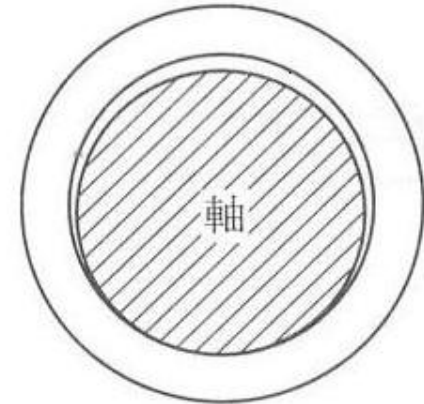
軸受は機械を支え、産業を支え、国を支える。



回転軸を支える軸受



模式図



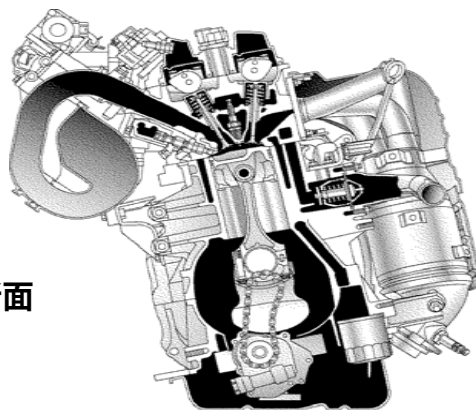
転がり軸受 日本精工(株)カタログから



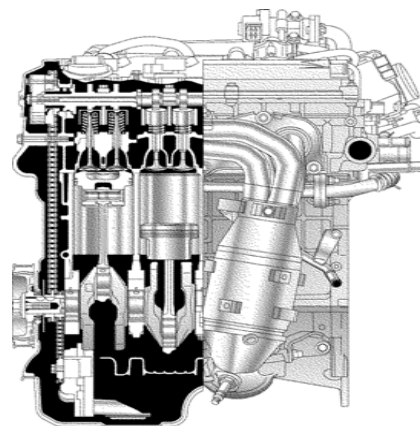
すべり軸受 大同メタル工業(株)カタログから

◆全体図

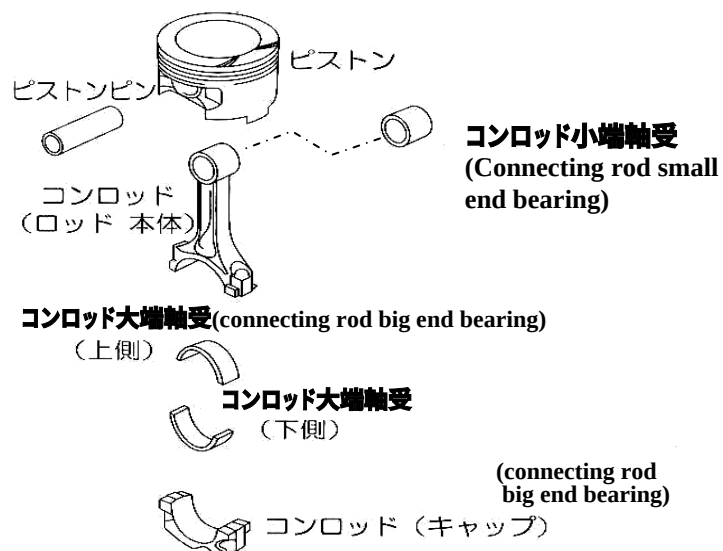
横断面



縦断面

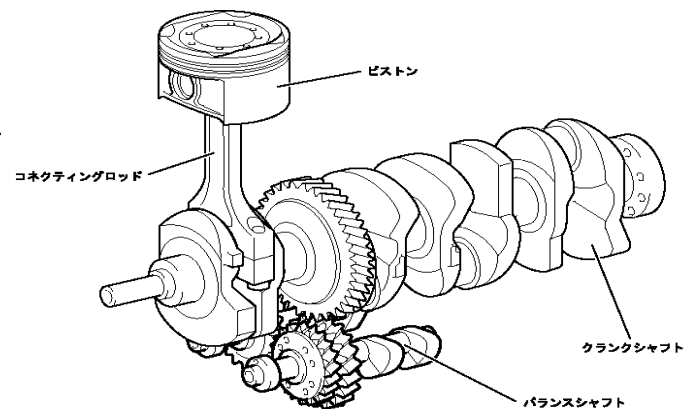


◆組付状態図



ピストン～コンロッド周辺

コンロッド

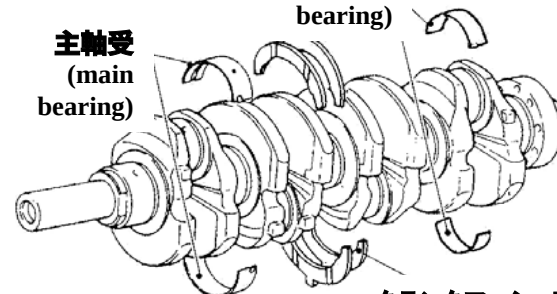


コンロッド大端軸受
(connecting rod big end bearing)

主軸受
(main bearing)

クランクシャフト周辺

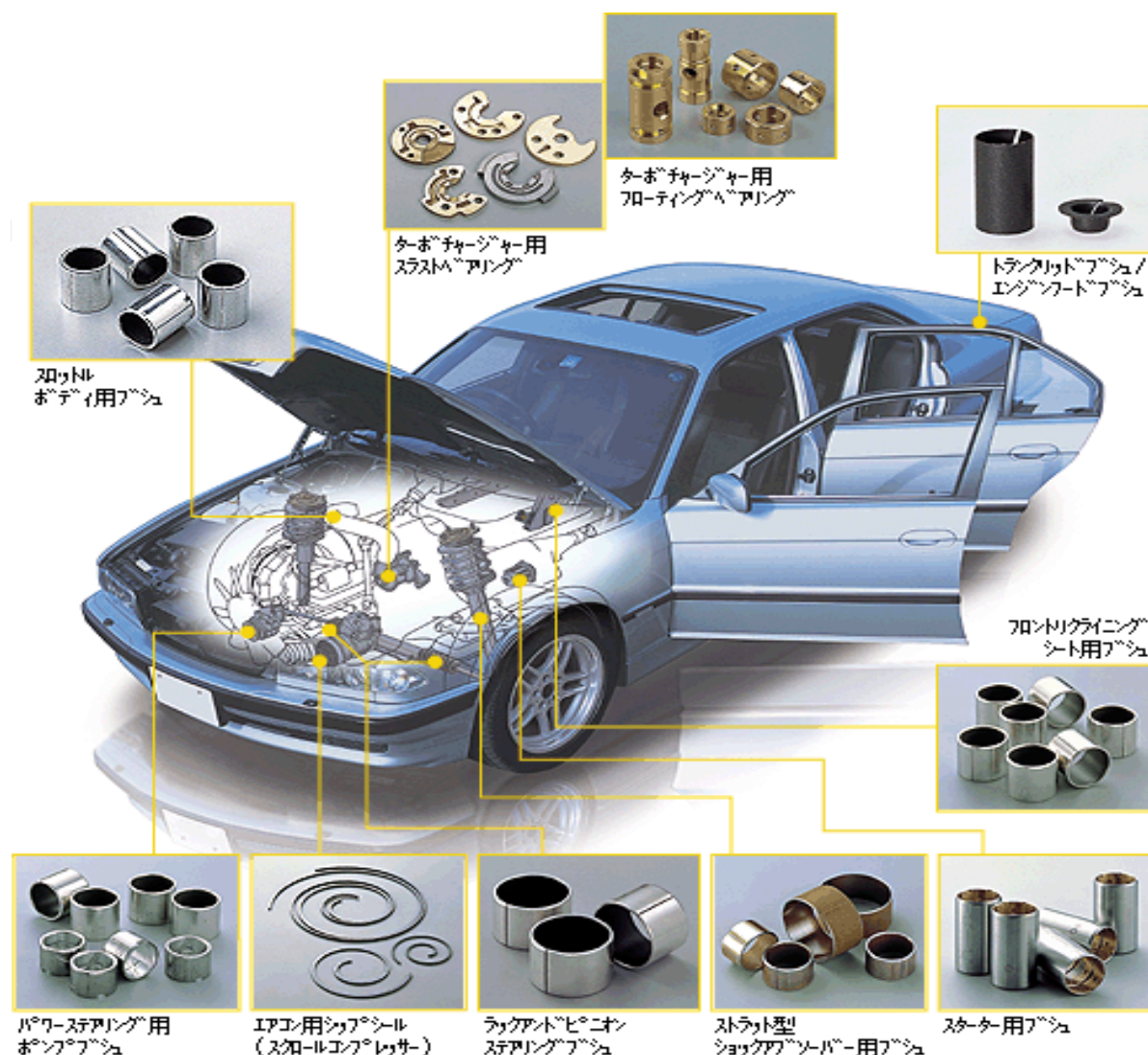
クランクワッシャ軸受
(crank washer bearing)



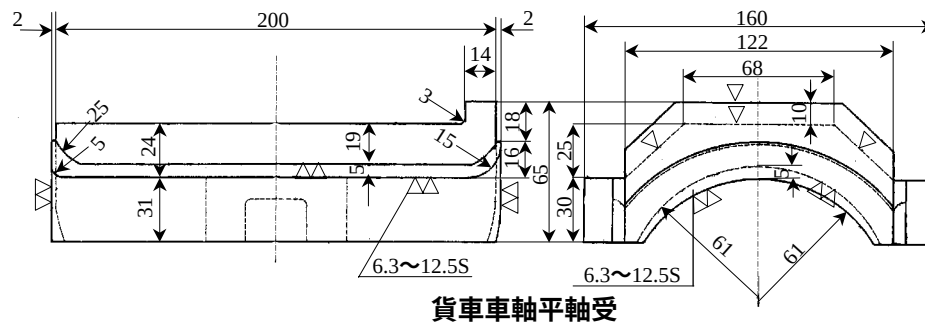
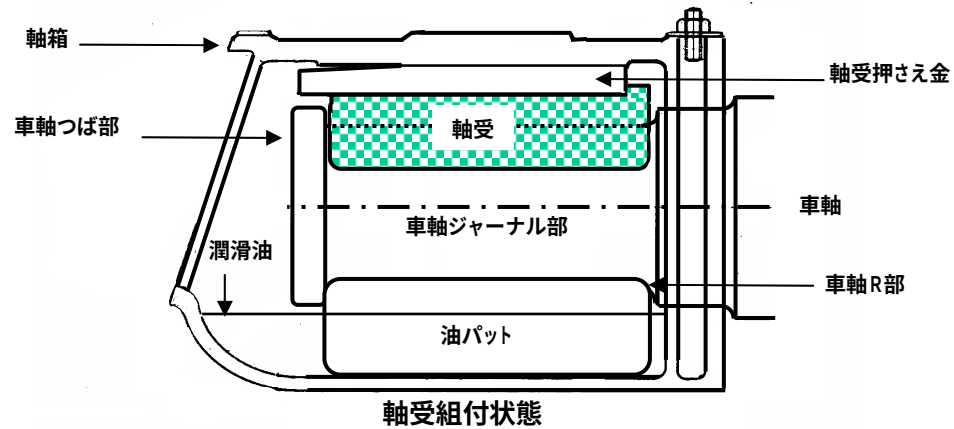
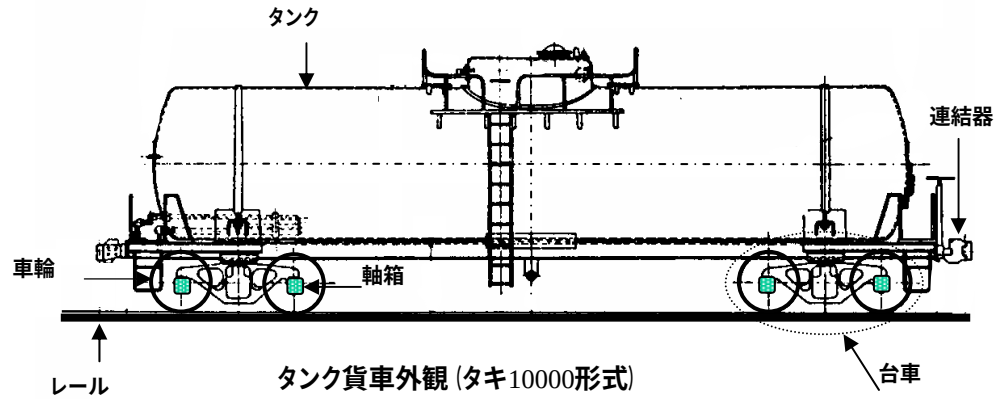
滑り軸受の適用例（１）エンジン用軸受



滑り軸受の適用例 (2) エンジン以外の自動車用軸受



貨車用滑り軸受



概要

事業目的

経済産業省産業振興支援事業「日本貿易振興機構」(JETRO)「貿易投資円滑化支援事業」(JEXSA)の一環として、タイの関係機関及び要人を訪問した。

用務

各訪問先で滑り軸受の標準化活動促進の重要性を説明し、またタイがISO/TC123及びその分科委員会のPメンバーとなって我々と共に国際共同作業を進めることの必要性を訴えた。

成果

後述するような成果を挙げる事が出来た。

1月31日（火）

Chulalongkorn大学長表敬訪問

タイ国の滑り軸受標準化活動推進に関する協力を要請



Chulalongkorn大学学長に面会



機械工学関連研究室見学

1月31日（火）

梅田東大名譽教授研究室訪問

Pbフリー化の研究の権威者



1月31日（火）

Chulalongkorn大学工学部長に面会

同席していた同大学機械工学科助教授Chairote Kunpanitchakit氏（2005年度アジア太平洋地域標準化体制整備研修会に参加者）の標準化活動を説明し、理解を得た。



2月1日 (水)

TPA (Technology Promotion Association (Thailand-Japan)) 訪問



2月1日（水）

TAPMA (Thai Auto-Parts Manufacturers Association) : 泰自動車部品協会幹部と面談



2月2日 (木)

Dyna Metal 社訪問



Dyna Metal 社幹部との記念撮影



染谷先生
新島社長

2月3日 (金)

Siam Toyota Manufacturing 社訪問



鈴木社長



Asia SEED 河井氏



アジア太平洋地域標準化体制整備研修会参加者との再会



事業内容（１）

国際標準化活動におけるわが国
産業界（業界団体等）の取組
状況や官民の連携による国際
標準化活動の実例の紹介

- (1) TPAのExecutive Director:Dr.Bandhit Rojarayanont氏、タイ工業標準局(TISI)の2名の職員、Ms. Saowalak Linlawan(アジア太平洋地域標準化体制整備研修会2004年度参加者)及びMs. Saluck Glunsuwan(同2005年度参加者)の参加を得て講義を行った。
- (2) TISIの2名の職員から、Ms. Saluck GlunsuwanがTISIにおける滑り軸受担当職員になったとの報告を受けた。
- (3) タイの産業界(特にTAPMA)から標準化活動の希望がTISI宛に提出されればTISIとしての公式対応がとれるとの報告を受けた。
- (4) 日本自動車技術会制定のJASO規格英語版CDを贈呈した。

事業内容（２）

タイにおける利害関係者（特に
産業界）を包括した国際標準化
活動促進体制の構築のための
指導、討議及び意見交換

(1) TPAのExecutive Director and Director General: Dr.Bandhit Rojarayanont氏と国際標準化に従事する人材養成に関して意見交換した。

(2) TPAは泰日工業大学を2007年度に設置して、タイの企業において即戦力となる人材養成を予定しているとの情報を得た。

(3) 規格は学術的基盤に裏打ちされている必要があるので、日本では、産業界と大学が緊密に連携をとって共同作業を行っていることを説明した。

(4) TAPMA、President Mr.Yongkiat Kitaphanich (早稲田大学大学院修了) 氏を含む幹部と面談し、情報交換した。

(5) 日本滑り軸受標準化協議会の活動実績に基づいて、産官学の広い範囲の共同作業が重要であることを説明した。

(6) TISIでは、TAPMAのTISIへの働きかけが必要であると言明しているとの情報を伝達した。

(7) 日本自動車技術会制定のJASO規格英文版CDを贈呈した。

(8) Dyna Metal社及びSiam Toyota Manufacturing社を訪問して講義を行うと同時に、タイ工業標準局(TISI)からの上記の情報を伝えて産官の協力要請を行い、現地有力企業の新島社長及び鈴木社長の理解を得ることが出来た。

事業内容（3）

日タイ産業界関係者による
協力体制の構築等

(1) 2005年度研修生の一人Mr.Nipon Korbthanachai (Dyna Metal社)がタイ国で唯一制定されている滑り軸受規格の原案作成者の一人であること、同氏はタイ国最大の滑り軸受メーカーDyna Meta社新島社長の信望も厚く、タイ国における滑り軸受標準化活動のKey Personであることを確認した。

(2) 新島社長に同氏の国際標準化活動への参加に関する理解を要請し、同氏からこの件に関して親会社である大同メタル工業(株)と折衝を行うとの回答を得た。

(3) 2004年度及び2005年度アジア太平洋地域標準化整備研修会に参加した合計7名の研修生のうちの6名に再会した。彼らがタイ国内で重要な役割を果たしていることを確認した。研修会の重要性を改めて認識した。

(4) TAPMA幹部と面談し、標準化に関して広い範囲の分野の担当者が一同に会して話し合うことが必要との認識で一致し、今後このような国際会議やシンポジウムの開催を検討することが必要であることを確認した。このことをJETROに報告することを約束した。

